



あなたのこれからに贈りたい  
Live Letter from MG



# MGにこの人あり エリザベス・R・プールボー



プールボー先生は、アメリカ ペンシルヴェニア州出身。15歳で信仰を告白して、地元の学校を卒業後、中学校・師範学校で教鞭を執ります。その間、婦人および少女に対する伝道に強い関心を持ち、日本でのキリスト教女子教育に献身することを決意。1886(明治19)年、メアリー・B・オールトと共に来日して、宮城女学校の初代校長に就任します。

信仰深く、清廉潔白なプールボー先生は、多くの困難や労苦を愛と祈りで克服。福音主義キリスト教の信仰に基づく女子教育の基礎を確立し、仙台における西欧文化の紹介に努めました。現在、仙台国際ホテルとSS30が建つ東三番丁の土地を、外国伝道局の協力により購入して、1889(明治22)年、最初の校舎を建設。宮城学院の礎を築きました。



①プールボー先生(中央)と養女のキティ(左) 妹のエマ ②女性宣教師館での一枚。中央の黒いドレスがプールボー先生 ③最初の校舎。その左奥に写るのが、女性宣教師館

## MG archives

### 校舎内の調度品にも現れていた プールボー先生のこだわり

最初の校舎が完成した当時、西洋風の建物はまだ珍しく、市民が憧れるミッションスクールのシンボリック存在で、別名「ノアの方舟」とも呼ばれていました。1階には教室や講堂、事務室、食堂、図書室兼応接室、2階部分の2/3は寄宿舎になっていました。校舎内の机や椅子、オルガン、シャンデリア等の調度品は、すべてアメリカから取り寄せたもの。そこには、プールボー先生の強いこだわりが感じられます。



01

誌上ゼミ  
日本画の成り立ちを学び、楽しみ方を知る

05

学問へのいざない

サービスを提供する側の視点を知り、養う基礎をしっかりと築き、その上で個性を伸ばす

07

特集

宮城学院創立130周年記念音楽会開催!

09

ACTION

MG×自治体・企業・団体  
さまざまな連携協定を締結!

11

My way MG way

卒業生の仕事場訪問

13

サークル紹介

14

CAMPUS NEWS

15

MGにこの人あり

「エリザベス・R・プールボー」

「Partir (パルティール)」はフランス語で「出発する」  
新しい時代に飛び立とうとする女性たちを支え、励ますために、  
宮城学院女子大学から発信するコミュニケーション情報誌です。

# 日本画の成り立ちを学び、楽しみ方を知る 人間文化学科の日本美術史ゼミ

画家の意図や背景を知ること、作品がより味わい深くなる

画家そのものを知ること  
広がる日本画の世界

**井上** 4年生はもう、卒業論文のテーマを決めて研究がスタートしていますね。今年には偶然にも全員が「日本画家」をテーマに選んでいます。まず4年生は、自分



井上 研一郎 教授

が選んだテーマについて教えてください。  
**今野** 私は明治から昭和にかけて活躍した女性の日本画家・上村松園をテーマにしました。最初は「女性画家で誰かいないかな」と思い、たまたま松園に関する資料を手にしたのですが、これがないか興味深くて。そのまま卒論のテーマになってしまいました。

**井上** 女性の日本画家と言えば上村松園、と言われるほどで資料も豊富ですね。彼女の息子、孫も画家で実際に親子3代の画家一家ですから、身内の「証言」も貴重な資料になります。

**今野** はい。明治から昭和にかけてのあの時代、女性画家ということ非常に

苦労をしていたと思うんです。ですので今後は、当時の画壇の状況なども調べて行きたいですね。

**井上** そう。画家の大部分が男性でしたからね。当時の画壇では師匠と弟子の関係が強く、合宿なども頻繁に行っていたのですが、そこでも女性は彼女ひとり。そこで深夜までおさんどんをした後に自分だけ帰宅し、翌朝にまた出ていくようなことをやっていたようです。展覧会に出品した絵を汚されたりもした。そういう時代背景もたどってみると、作品の見え方も変わるといいます。

**菅原** 私は青森県出身なので、同郷の棟方志功をテーマにしました。彼は女性をモチーフにした版画を多く残っていて、その描き方に彼の思想が現れている気がして。そこで志功が女性に対しどのような思いを抱いていたのかを知りたい、と思ったことがきっかけでした。

**井上** 確かに棟方志功には《女人観世音》など、女性をモチーフにした優れた作品がたくさんありますね。

**菅原** はい。そして「世界の棟方」として評価が定まってきたから、故郷の青森にまつわる作品がいつきに増えるんです。そうした題材の変遷とともに、志功の心境の変化を追いかけていきたいと思います。

**井上** 東北の人間は、功成り名を遂げながら出身地を明らかにすることがよくありましたね。コンプレックスの裏返しという人もいるけれど、事実として「東北出身」ということに対する偏見もあったでしょう。そういうものを跳ね返すために頑張ってきたという側面もあったでしょう。ほかの青森出身の画家を含めて考察すると面白いかもしれません。道淵さんのテーマは鎌木清方でしたね。

**道淵** そうです。研究室にあった展覧会の図録で《秋宵（しゅうしょう）》と



## 人間文化学科 井上 研一郎 教授

[2~4年生 人間文化学科のみなさん]

- 今野 菜央さん(4年)
- 菅原 瞳さん(4年)
- 道淵 友淑さん(4年)
- 村上 佳さん(4年)
- 菊池 桃子さん(3年)
- 長田 玲佳さん(2年)



学芸員課程で日本画の取り扱いを指導する井上教授



実際の作品を前に鑑賞の仕方を学びます



道淵 友淑さん



菅原 瞳さん



今野 菜央さん



「この作品を初めて見たときに、その色使いや対象のとらえ方に心ひかれたことがきっかけで。美人画のほかに挿絵や肖像画など、さまざまなアプローチで作品を残している画家ですが、卒論では美人画に絞って調べているところです。」

**井上** 《秋宵》は、鎌倉の鐫木清方記念美術館に収蔵されています。ぜひ一度実物を見てほしいです。

**道淵** 必ず時間を作って行こうと思っています！それから、清方の美人画で気になっている点が「背景の変遷」です。初期には雨の風景を描くため自ら雨に濡れながら描いたというほど背景にこだわっていた。その彼が時代を追うにつれ、人物のみにフォーカスを当て、背景をぼんやりと描くようになっていくことに気づいたのです。その理由についてもあわせて調べたいと思っています。村上さんは東山魁夷を調べていますよね？



菊池 桃子さん

より、どちらかというと歴史的価値に重きをおいて見ていました。でもこのゼミに参加するようになって、作品の味わい方を知ったことで、ようやく「この作家の、他の作品も見てみたいな」と思うようになってきたんです。

**井上** 「作品の味わい方」というのは至言ですね。高校までの美術の授業では「絵を描く」ことに重きを置きがちだけど、その先に進むには才能やセンスの問題になってしまおう。でも「絵を見る」とことは、ちゃんと学びさえすれば、誰でも



村上 佳さん

**村上** ええ。実は最初、魁夷の作品を画集で見たときに、正直「地味だな」と……（笑）。でも唐招提寺の「御影堂障壁画」を見て印象が一変しました。それまで「地味」だと感じていた作品にも、落ち着きや深みを感じるようになって。

**井上** 東山魁夷は「昭和の国民画家」と呼ばれるほど、日本画家の中でも特に知名度が高いですね。

**村上** そう、そこなんです。いつ、何をきっかけに「国民画家」と呼ばれるようになったのか、その理由を込めて、何を表したかったのか。それを知る前と後では見え方が変わる。そして絵と生涯つきあっていくことができるようになるんです。菊池さんは歴史に興味があるようだから、風俗画や浮世絵をテーマにすると面白いかもしれないね。長田さんはまだ2年生だから、テーマをしばるのはこれからかな？

**長田** そうですね。私も実は美術史の授業で「絵の見方」を知って、それまで漠然と絵を見てきたことに「人生ソシ



長田 玲佳さん

たのか、その理由をぜひ調べたいと思っています。契機となった作品やその時代背景なども、あわせて検証できれば、と。

**井上** 唐招提寺もそうですが、皇居の新宮殿にある《朝明けの潮》なども代表作のひとつですね。彼がなぜそうした仕事を頼まれるようになったのか……「政治力」があったのかもしれないし、もしくは彼を強く推す有力な人がいたのかもしれない。そうした背景を考察するのも面白いですね。

### 描いた場所や時代から主張するテーマがわかる

**菅原** 菊池さんはまだ3年生だけど、もう卒論のテーマは決めた？

**菊池** 実はまだ……（笑）。もともと美術そのものというより、歴史に興味があった。博物館に行くのが大好きなんです。なので、これまでは絵画も作品そのもの

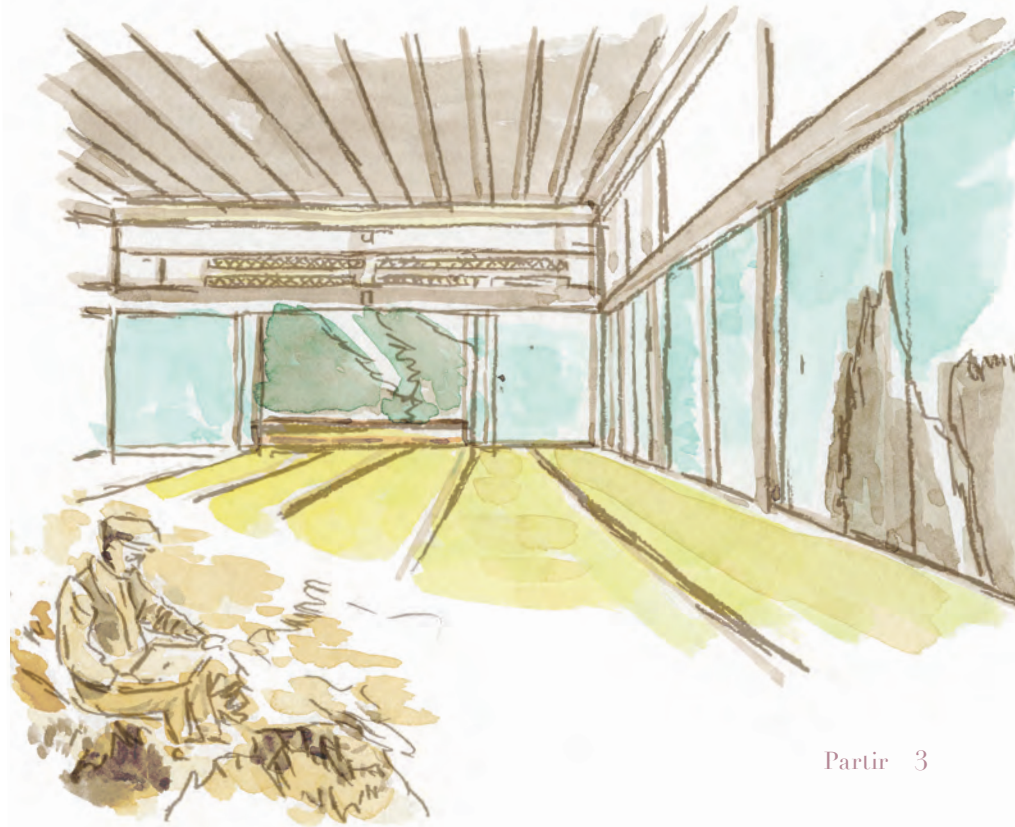
「たな」と感じたことが、このゼミを選択したきっかけでした。歴史の教科書に載っている絵があらためて勉強できるのが、なにより楽しいです。

**井上** 今、特に気になっている画家はいますか？

**長田** 注目しているのは松本竣介です。宮城県美術館にある《画家の像》では背景や人物の視線にもそれぞれ意味があつて、それを理解する前と後では、作品がまったく違うものに見えてきました。

**井上** 背景の中央にドームをもった塔がありますよね。一瞬、「ヨーロッパの町を描いたのでは」と考えたりしますが、これが三ライ堂だとわかれば、時代・場所が「昭和の東京」であると特定できます。このほか服装など、いろんなモチーフからさまざまなことを語っている作品です。

イタリアの高校では美術史の授業があり、肉屋のおじさんでも八百屋のおじさん



でも「ミケランジェロ」や「ラファエロ」について語ることができるといいです。日本でもっと美術が身近に感じられる教育が、若いうちから受けられるといいですね。大切なことはできるだけ作品を自分の目で見ることに！今はネットや画集など、ビジュアルな情報が簡単に得られるので、本物を見ずに研究ができるような錯覚が起ります。でもその大きさや筆致などは、実物を見ないと伝わってきません。ぜひ展示があるときは機会を設けて、本物を目の当たりにして欲しいですね。





## サービスを提供する側の 視点を知り、養う

現代ビジネス学科 宮原育子教授

**ビジネスの現場に趣き  
その意図や仕組みを知る**

2016年に新設された「現代ビジネス学科」は、ビジネスに不可欠な知識や実践力を身につける場としてスタートしました。授業では、ときに「ビジネスの現場」を見学し、その仕組みと流れ、意図などについて学ぶ機会も設けています。例えば先日は泉パークタウンピアノの売場とバックヤードを見学しました。納入からディスプレイまでの商品の動きや、販売員の動線など、裏側にまわることで初めて見えたものがたくさんあったのではないのでしょうか。ほかにも宮城県丸森町の筆甫地区でヒマワリの種まきに参加したりするなど、さまざまな「ビジネスの現場」を見学しています。8月には東京へも足を運び、証券取引所や貨幣博物館、松坂屋、駅ビルなどを見学しました。



特に百貨店では女性が活躍する現場を肌身に感じることで、ビジネスをより身近に、自分らしい視点で捉えられたのではないかと感じています。

**東北のインバウンドを  
大きく担う人材として**

ビジネスの現場を見学することを通じて、学生たちはマーケティングの手法や流通の仕組みなど、サービスを提供する側の視点を養っていきます。「なぜこうするのか」「どうしてこれがあるのか」——現

場での行為や意図を理解することで、サービスを享受する側だったときには見えなかった動きや仕掛けが、どんどん見えてきます。そこに面白みを感じ、社会に出たときにその視点を役立てて欲しいと考えています。

近年インバウンド観光が注目を集めています。日本全体で見ると、東北はやや出遅れている印象です。私たち各人が外からのお客さまを「受け入れる側」であるという自覚を持つべきでしょう。どんなプログラムがウケているのか。そこにはどんな仕掛けが必要なのか。宿や土産物店などいわゆる「観光業従事者」だけではなく、農業・水産業・工業などさまざまな業種が一体となることで、より魅力的な観光コンテンツが誕生するはずです。それらの現場で当学科の学生たちに活躍してもらうことが、私たちの願いです。

Profile

東京都出身。東京大学大学院理学系研究科博士課程修了。博士(理学)。1997年に宮城大学事業構想学部事業計画学科に着任し、2007年より宮城大学地域連携センター副センター長を経て、2016年より現職。○信条「いつも元気で！」



## 基礎をしっかりと築き、 その上で個性を伸ばす

音楽科 副島謙二特任教授

**自分が出す音を認識し  
音楽を表現する**

専攻科・副科でクラリネットのレッスンを担当しています。演奏家としてプロをめざす人、指導者をめざす人など目標はさまざまですが、いずれの場合も大切なのは「自分の音」を見つけることです。この楽器を選択する生徒は、中学・高校で吹奏楽部を経てきているケースが大半ですが、その場合パートを複数人で吹くため、自分の音に気がつかないことが多いんです。まずは「自分がいったいどんな音を出しているのか」ということを知ることです。大学でのレッスンは個人レッスンなので、いやがおうにも自分の音と向き合うことになります。

私の役割は「指導」というより、学生たちそれぞれが持っている「感性」や「音色」を気づかせるためのちょっとしたアド

**どんなときにも、まずは  
基本に立ち帰ること**

バイス。リードの厚さを変えてみたり、息の圧力を強くしてみたり。練習に練習を重ねて技術を磨き、経験を積んでいけば、そこから「自分の音」が見えてくるでしょう。

私自身が「仙台フィルハーモニー管弦楽団」出身ということもあり、オーケストラやアンサンブルの指導も行います。ソロは「すべて自分の音」ですので、プレッシャーがある反面気楽な部分もありますが、オーケストラの場合は指揮者の指示を受け、周囲の音を聞きながら音づくりをする。それが難しくさであり、醍醐味でもあるのです。

そこで妙なクセのあるニュアンスで吹いてしまつては、全体を台無しにしてしまいます。まずはメトロノーム通りに、正確に吹くことが大切。もちろん、その人ら

しい感性や表現は大切なのですが、しっかりと土台を築いた上に、個性で色付けしていくべきです。実は私は今でも基礎となるエチュードを吹きます。演奏会などがしばらく続くと、だんだんニュアンスにクセが出てくる。そんなときいつでも基礎に立ち返って、一つひとつの音をきつちりと正確に鳴らすことを意識しています。

まずは基礎を身につけ、自分の音を見つめること。それによってクラリネットは、何倍も楽しくなるはずです。



Profile

佐賀県佐賀市出身。国立音楽大学音楽学部器楽学科クラリネット専攻。山形交響楽団、宮城(現 仙台)フィルハーモニー管弦楽団、本学音楽科非常勤講師を経て、2016年より現職。○信条「愚直守朴(ぐちよくしゅぼく)」

私のおすすめ CD

**レオポルド・ウラッハの芸術 第2集**  
ブラームス作曲「クラリネット五重奏曲」

レオポルド・ウラッハ(1902～1956)は、現在から4代くらい前のウィーン・フィル首席クラリネット奏者。彼の音は、朴訥とした印象でありながら、実は優雅でふくよかで、いぶし銀のよう。彼の演奏からはただただ深い音、音楽だけが伝わってきます。特に第二楽章は、まるで「魂の叫び」が聞こえてきそうです。



これが学びのツボ!

ひたすら練習しないと、本当の音楽は決して見えてこないと思いますが、音楽を表現するには、どうしてもテクニック中心になってしまいがち。確固たるテクニックは必要ですが、それが表に出ることなく、その曲の持っている「音楽性」が表現できたら、最高ですね。

私のおすすめ本

**「紅茶スパイ：英国人プラントハンター中国に行く」**  
原書房 サラ・ローズ・著/築地誠子・訳

かつて中国が独占栽培していた「チャノキ」を、英国人プラントハンターのフォーチュン氏が「盗み出し」、自国で一大ブランドを築き上げる——普段何気なく口にしてる紅茶に、こうしたエピソードが隠れていることにロマンを感じますね。



これが学びのツボ!

学校で空き時間を持って余す学生も多いのでは?例えば授業で気になったワードを調べる、図書室で興味のあるジャンルの文献をあたる、など「わがままな学び」は今こそ許される最高の贅沢。時間を有意義に使いましょ。

# 「宮城学院創立130周年記念音楽会」開催！

## 音楽会をふりかえって



### 演奏することで果たせた “曲の伝道師”としての役割

記念すべき音楽会のトリを飾ることに多少の重圧は感じていましたが、それ以上の大きな喜びがありました。演奏家の私ができることは、作曲家の思いを“曲の伝道師”として、演奏にのせて観客の皆さんに届けること。演奏終了後、万雷の拍手を聞いた瞬間、自分の役割を果たせた！という達成感がありました。共演者や宮城学院関係者の皆さんと一緒に、音楽会を作り上げ、共有できたことは、一生の思い出です。



ピアノ  
及川 浩治 教授  
(本学音楽科)



指揮  
船橋 洋介 准教授  
(本学音楽科)

### ずっと指揮していたい 愛おしさを感じた音楽会

伝統ある宮城学院の晴れ舞台でタクトを振るうことは、本当に身の引き締まる思いでした。今回の魅力あふれるプログラムから、当日は自分自身の創造力を駆使して、共演者の魅力をいかに引き出すか？に集中しました。特に会場の雰囲気が素晴らしく、観客・演奏家・スタッフの間に漂う一体感は、まさに格別でした。「ずっと指揮していたい」そんな愛おしささえ感じられる、素敵な音楽会でした。



### 会場の皆さんのサポートが 私にとっての原動力

宮城学院を代表して舞台上立つのは、光栄なことである一方で、責任の重さも感じました。声楽は、自分自身の身体が楽器。当日に向けて、心身ともにベストに仕上げるため、細心の注意を払っていました。地元・仙台での公演は久しぶりでしたが、会場の皆さんからの温かいサポートが、当日の私の原動力でした。宮城学院に関わる皆さんの“誇り”と“熱い思い”を、ひしひしと感じた1日でした。



ソプラノ  
カオリ・サトウ・  
オストロフスキーさん  
(ニューヨーク州立大学  
パーチェス音楽院准教授)

今年で創立130周年を迎える宮城学院。今日までの長い歴史の中で、宮城学院は「音楽」と密接なかかわりを持ってきました。130年という節目の年に花を添えるべく、豪華な演奏家を迎えて開催された音楽会の様子をご紹介します。



## 宮城学院ゆかりの豪華キャストによる 夢の共演

5月18日に開催された「宮城学院創立130周年記念音楽会」。会場の東京エレクトロンホール宮城には、宮城学院の在学学生をはじめ、数多くの卒業生や招待客など、約1500人が詰めかけ、130周年にふさわしい祝福ムードが、会場全体に漂いました。

音楽会では、本学音楽科の及川浩治教授（ピアノ）、船橋洋介准教授（指揮）、本学音楽科の卒業生でソプラノ歌手のカオリ・サトウ・オストロフスキーさんの3人が、仙台フィルハーモニー管弦楽団と共演。ベルリオーズの「序曲『ローマの謝肉祭』作品9」、「歌曲集『夏の夜』作品7」、チャイコフスキーの「ピアノ協奏曲第1番」を披露しました。

第一線で活躍する演奏家たちが紡ぎ出す極上の調べは、会場に詰めかけたすべての観客を魅了。プログラム終了後も、しばらく拍手が鳴り止みませんでした。



## 宮城学院創立130周年記念

### 「宮城学院同窓会ホームカミングデー特別講演会」開催

5月15日、創立130周年を記念して行われたホームカミングデー。そのプログラムのひとつとして、2014年ノーベル平和賞受賞者カイラシュ・サティヤルティ氏による講演会を開催しました。演題は「思いやりの心で世界を救うー声なき子どもたちの自由と未来のためにー」。グローバルな児童労働活動を行うサティヤルティ氏は、これまでの経緯や自身の志、さらに「恵まれた環境下の子どもが“思いやり”を持ち、児童労働反対の声をあげること」の重要性を、熱く語りました。



# Action

## MG×自治体・企業・団体 さまざまな連携協定を締結!

現在、宮城学院女子大学では、  
私たちが暮らす自治体や  
地域に根ざした活動を行う企業・団体と  
連携協定を結び、コミュニケーションを図りながら  
つながりを強めています。



### 楽天野球団と連携協定を締結!

MG  
×  
企業

4月21日、本学と株式会社楽天野球団が連携協定を締結。締結式が楽天Kobostadium宮城で行われました。本学からは平川新学<sup>あべた</sup>長と現代ビジネス学部長の宮原育子教授、楽天野球団からは立花陽三代表取締役社長と森井誠之執行役員が出席しました。



過去に立花社長の講演会、学生が考案したコラボ弁当の販売、試合日の運営体験を行うなど、

貢献やスポーツ振興等への積極的な連携を約束しました。

接点の多かった本学と楽天野球団。今後は、試合運営のサポート、子ども向けイベントへの学生の参画、女性向け企画の意見交換など、幅広い連携事業に取り組む予定です。

### 富谷町と連携協定を締結!

MG  
×  
自治体

3月25日、本学と富谷町の間で連携協定が締結され、富谷町役場で調印式が行われました。この連携協定は食の



分野を中心に  
したもので、本  
学は「フルーツ  
の街」を掲げ  
る富谷町に対  
して、ブルーベ  
リーに次ぐ特  
産品の開発やレシピ作成などに協力し  
ていきます。ほかに、食育関連事業  
や研修への講師派遣・学生の受け入れ  
などを実施していきます。



協定書への調印後、平川新学長と若

生裕俊町長は、しっかりと握手を交わ  
し、今後のより密接な連携協力を約束  
しました。

### 宮城県漁業協同組合と連携協定を締結!

MG  
×  
団体



5月13日、本学と宮城県漁業協同組合（JFみやぎ）が連携協力を締結。石巻市のイオン石巻で締結式が行われました。

県民に広く食文

化を伝承し、漁業の普及・振興をめざすこと、さらに魚食文化の学術研究を進め、新たなレシピを開発することなどが、今回の連携協定の目的です。

当日は、本学の平川新学長と丹野一雄会長が協定書に署名。協定書を取り交わしました。その後は、本学学生による銀

鮭の試食が振る舞われたほか、食育セミナーも開催されました。



現在の活動を通じ  
「声を出す」ことの魅力を  
より多くの人に伝えたい

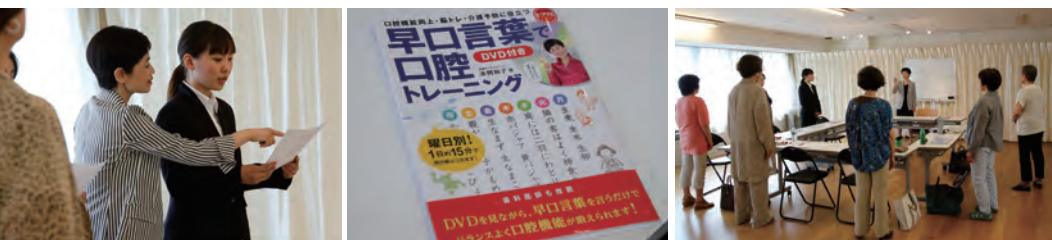


—今日は赤間さん主宰の「健康ポイントレ音読塾」に参加させていただきました。みなさん声にハリがありますね。

—NHK文化センターで開講してもう10年以上になるんですが、当時から参加されている方も少なくないんですよ。もともと「声を出すことの楽しさ」を伝えたくて始めた講座ですが、「音読」が脳トレに良いことや、近年では口腔機能向上に効果があることが注目されています。

—アナウンサーになろうと思ったきっかけは？

父が放送局勤務だったこともあり、自然と志望するようになりました。宮城学院女子大学の英文学科時代、東北放送ラジオのレポーターやNHK仙台放送局キャスターなども経験して。当時、学生でもキャスターを担当できたので、ロケに行ったりニュースを読んだりしていました。就職活動ではラジオテレビの最終面接まで残ったんですが、残念ながら結果は不採用。そこで系列局の福島テレビに入社し、アナウ



「上手な話し方のコツは？」まずは話す前にテーマを整理すること。そしてセンテンスを短く話す相手理解しやすいです」

最新著書「早口言葉で口腔トレーニング／DVD付」(世界文化社)が好評発売中。老人ホームなど多くの施設で活用されている

会場のスタジオルーモコレクションで開催された「健康ポイントレ音読塾」では、早口言葉の練習やショートドラマの脚本音読などを行った

ンサーとしてのキャリアがスタートしました。

—その後テレビ東京、NHK仙台放送局を経てフリーになられたんですね。

「東京でアナウンサーとして仕事がい」という想いが強く、テレビ東京のキャリア採用に合格して夢が実現しました。その後は、学生時代にお世話になったNHK仙台放送局で、キャスターとして12年間務めました。

—実際にアナウンサーになられて、どんなことが大変でしたか？

女性アナウンサーは「スタジオにいて華やか」というイメージがありますよね。でも、実際は「画面外」の仕事もたくさんあります。取材先の下調べ、カメラや音声スタッフとのコミュニケーションなど、仕事をする上ではこちらの方が大切なんです。最初に入社したのが地方局だったので海や山へのロケも多く、アナウンサーもライトを持ちたり、機材の撤収を手伝ったりするのが当たり前でした。現場ではスケジュールがタイ

トなので、食事の時間も短くて、食べるのがすごく早くなりましたよ(笑)

—現在は「声と話し方コンサルタント」として活躍されています。

人前で話すとき、「言葉遣いや話し方」を意識しますよね。でもそれと同じくらい「声」が重要です。スピーチ、プレゼン、電話応対、面接もそうですよね。その時の相手や状況、目的に応じて、「声の表情」を変えるべきなんです。ビジネスコミュニケーションに大切な「声と話し方」をアドバイスすることが、今の仕事の軸です。一方で、今日の講座のように「声を出すことを楽しむ」とことを広める活動にも、力を入れています。

—今後の展望についてお聞かせください。

今後は「声と健康」をテーマにした仕事にも取り組んでいきたいですね。直接伝えることはもちろんですが、本やDVDを活用して頂きたいと思っています。一人でも多くの人に「声を出す」楽しさを感じて頂けると嬉しいです。

Profile 赤間裕子さん

高松市生まれ。宮城学院女子大学英文学科出身。20年間の放送局アナウンサーを経て、「ヴォイス&トーク」設立。企業・団体・自治体等での研修・講演講師として活躍。個人向けの「声と話し方スクール」開校。本学英文学科での「話し方講座」を、2008年度から担当している。

【取材】  
広報室インターンスタッフ  
渡辺琴音(日本文学科2年)

声と話し方コンサルタント  
赤間裕子さん

サークル紹介 01

よさこい部

- 部員数：103名
- 活動日：毎週火・木曜
- 活動場所：ブリックハウス前および体育館

観客に届けたいのは  
踊り手の思いが伝わる演舞!

大学一の大所帯であるよさこい部。イタリア語で「踊ってもいいですか?」という意味の「Posso ballare? (ぼっそばらーれ)」がチームの愛称で、学内では「ぼっそ」で親しまれています。“観る人たちに、踊り手の思いを伝える演舞を!”が、私たちのモットー。あいさつをはじめとする「礼儀を大切にすること」も、代々受け継がれているぼっその大切な伝統です。

よさこいを通じて  
全国に広がる 友だちの輪!

普段の練習はただ踊るだけでなく、常に観客に見られていることを意識しながら、取り組むようにしています。毎年、地元・仙台で開催される「みちのくYOSAKOI! 祭り」を筆頭に、北は北海道、南は名古屋まで、全国各地で開催される祭りに参加。よさこいを通じて全国に友人ができるのが、とてもうれしいです。今後は、メンバー全員が気持ちをひとつにして、技術の向上そして踊りを楽しめるよう、練習していきたいですね。



大学祭では毎年、見事な演舞を披露!



気持ちをひとつにして 一足踏み云々!



部長  
山本美沙希さん  
(発達臨床学科2年)

サークル紹介 02

剣道同好会

- 部員数：10名
- 活動日：毎週月・水・金曜
- 活動場所：武道場

剣道を愛するメンバーが集い  
今年から活動をスタート!

今年から活動を開始した剣道同好会。これまでずっと競技を続けてきた人はもちろん、一度は競技から離れてしまったものの「剣道が好きで、剣道がしたい!」という思いを持った学生たちが集まりました。モットーは「ケガをしないこと」「活気が出るように声を出すこと」「チームワークとコミュニケーションを大切にすること」。この3つを心がけて、日々の活動に励んでいます。

目標は同好会から部への昇格!  
そして大会で良い成績を残すこと!

練習は週3回、1時間半ほど。メニューは、メンバー全員で話し合いながら決めています。年に数回、さまざまな大会に参加しているのですが、大会前は自分を追い込むような厳しい練習を行っています。今後の目標は、活動を継続して部に昇格すること!大会に出場するからには、良い成績も残したいです。「剣道がしたい!」と思った人は、学年を問わず、ぜひ武道場に足を運んでほしいですね。



練習中の場内には、常に勇ましい掛け声が響き渡ります



部への昇格をめざし、日々の練習に励んでいます



部長  
奈良坂 章夏さん  
(日本文学科2年)

海上自衛隊所属OGの講演会

「南極に行ってきました!」  
「南極観測船「しらせ」の旅」開催

6月1日、海上自衛隊砕氷艦「しらせ」船務科所属の加藤文美さんによる講演会が開催されました。加藤さんは、八木祐子教授(本学学芸学部)の元ゼミ生で、現在は横須賀基地に勤務。昨年11月から「しらせ」に乗船し、女性



自衛隊員としては初めて南極での勤務にあたりました。当日、加藤さんは船内での活動内容をはじめ、物資の供給や南極に生息する生物などについて、スライドを交えて詳しく解説。参加した学生たちは、加藤さんの話に聞き入っていました。講演終了後には、学生からさまざまな疑問・質問が寄せられ、加藤さんは丁寧に答えていました。

食品栄養学科のボランティア団体が  
「食育推進ボランティア表彰」を受賞

6月11日、福島県郡山市で開催された「食育推進全国大会 in ふくしま」で、本学食品



栄養学科のボランティア団体「FAS (Food And Smile)」が、農林水産大臣から食育推進ボランティア表彰を受けました。

これは、食育を推進するボランティア団体・個人の中から、特に素晴らしいと認められた団体・個人に対し表彰されるもので、FASは、児童館の子供たちへの栄養教育、地元企業・住民と連携したレシピ開発などの食育活動を実施。さらに、被災教訓を生かした地域の食産業との連携プロジェクトで、料理本の発行やメディアへのPRを行うなど、地域の広報活動にも大いに貢献する取り組みが評価され、今回の受賞となりました。

1200「いいね!」突破!

大学公式 facebook に「いいね!」しよう!!



宮城学院女子大学に関する情報がいっぱいの公式 facebook。おかげさまで、1200「いいね!」を突破しました!未登録の方は、ぜひアクセスして「いいね!」してくださいね!



[www.facebook.com/mgu.ac.jp](http://www.facebook.com/mgu.ac.jp)

あとがき

日本人のメダルラッシュに沸いたりオ五輪獲得した金メダル12個のうち、実に過半数の7個が女性アスリートによるもの。世界を舞台に躍動する大和撫子の姿が、とても印象的でした。今年、学院創立130周年を迎えた宮城学院でも、無限の可能性を秘めた大和撫子たちが、それぞれの夢に向かって学んでいます。宮城学院女子大学では、金メダルに負けないほどの輝きを放ち、さまざまな舞台上で活躍できる女性を、これからも育成していきます。